ISO45001発行から6か月

日本版労働安全衛生マネジメントシステムが始動

特別座談会

JISQ45001／JISQ45100あす公示

日本の安全文化を高める好機

労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格ISO45001が、3月に発行されてから6カ月。その翻訳版となるJISQ45001と日本独自の事項を盛り込んだJISQ45100があす28日に公示される。これにより、国内における労働災害防止の実効性のある取り組みが加速する。特に日本版のJISQ45100は、従来、日本に根付く労働安全の取り組みを反映させて、国内における労働災害防止の実効性を一段と高める指針として期待されている。経産省と厚労省の関係者らを一堂に集め、ISO45001とJISQ45001／45100に対する期待と課題を語ってもらった。

日本発の国際規格のモデルに

藤代氏

向殿　3月に労働安全衛生に関するISO45001を発行されましたが、これまでISO14001と同様、今回の45001も、日本が提案すべき内容のものに盛り込んでいくことが必要となるでしょう。その中で45100を多くの企業に使ってもらいたいですね。

藤代　本来であれば、9001と14001は今回の45001と同様、日本が提案すべき内容のものだったと思います。ただ、最初は品質認証の9001に改善の要素が一切入っていなかったため、日本独自の45100をカイゼンが国際的に扱われるようになりました。規格自体も改善されていくわけですから、日本独自の45100を提案していけばよろしいかなと考えています。

藤代　本来であれば、9001と14001は今回の45001と同様、日本が提案すべき内容のものだったと思います。ただ、最初は品質認証の9001に改善の要素が一切入っていなかったため、日本独自の45100をカイゼンが国際的に扱われるようになりました。規格自体も改善されていくわけですから、日本独自の45100を提案していけばよろしいかなと考えています。

向殿　日本においては、これまでは、現場の力で労働安全衛生をやってきたわけですが、そこに経営トップが関与するということで今回のマネジメントシステムは非常に重要です。日本の現場は力強さ意味で現場の力でもありますし、これを全体のシステムとして巻き込んで経営と一緒にやることなど、日本の労働安全衛生はすごく良くなると思います。最終的には、45100による優秀な パフォーマンスを国際的に示していくことによって、日本独自の45100による提案していけばよろしいかなと考えています。

奥村　当該企業での安全衛生の向上はもちろん最大のメリットですが、その他のメリットとして挙げるのは、やはり人材の獲得です。建設業など危険な作業を伴う会社には、なかなか人が来ない という実感があります。同じ業種でも認証を取っていれば、人材獲得で優位になるはずです。

山岸　OHSMSの普及推進を図るうえで、認証取得を働きかけるのか、JISQ45001あるいはJISQ45100の運用を働きかけるのか、この二つで大きな違いがあります。グローバルな大企業は認証取得に向け準備を進めていこうとしていますが、この二つのツールに関しては、中小企業は認証取得に向け準備をしていく考えです。1960年代には、日本の労働災害による死亡者は過去最大で7,000人近くでしたが、72年の安衛法の制定後、ぐっと減りました。現在は1,000人台を切っておりますが、最近は減少傾向が鈍化しています。今回のJIS規格制定をまたさらに死亡者数を減らすきっかけにしなければならないと思っています。

八牧　安全衛生は環境に近いものだと思います。中央労働災害防止協会さまが、JISQ45001と同じ観点で発信していくことも有効ではないでしょうか。

提案　日本規格協会は規格の普及促進ですから、労働安全衛生の向上はもちろん、労働災害防止協会さまと協力して45500シリーズの普及を上手に

提案氏

普及促進へ企業を全力でサポート

やっていきたいですね。

藤代　企業にとって何が本当に役立つかを問うておりますが、最近は、SDGsが注目されていることもあり、ISO45001が能動的に取り組む企業を中心に、環境安全を企業の中心に、環境安全は必要だと言う声が多くなってきました。

提案　JISQ45001は、ISO45001と同様、労働安全衛生に関する国際規格ですから、労働安全衛生の向上はもちろん、労働災害防止の観点で、SDGs達成に貢献できる企業を中心に、環境安全は必要だと言う普及教育の取り組みが必要と考えます。450 01をうまく活用して投融資側のチェックポイントとしてやっていくことができれば、企業の環境安全の促進でもあるし、企業の社会的責任を果たすためにも、企業のみなさんがより財務レベルやすいよう、説明の流れやサポートの方法などをさらに工夫していただいたらと考えています。

藤代　国内も国際外も同じという観点で今回の日本の取り組みが国際提案を通じて国際共通の取り組みになることを願っています。

奥村　多くの労働災害が発生している現時点、環境安全を重点に対策を講じて現場の力を高めていくことが大切だと思います。

八牧　労働安全衛生の中で、JISQ45001の普及が当面の大きなテーマと受け止めています。職員一同、大義をもって進めていきたいと思います。

向殿　45100の登場で、個人的にはISO45001がかなり普及できるのではないかと感じています。最後になんなりと思いを語ってください。

提案　JISQ45001を活用した安全衛生に取り組み は、企業運営に欠かせません。企業活動グローバル化するなかで、必須の課題でもあります。これを普及促進するためにも、企業のみなさんがより財務レベルやすいよう、説明の流れやサポートの方法などをさらに工夫していただいたらと考えています。

山岸氏

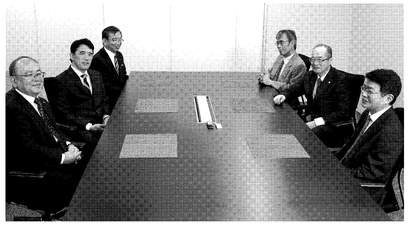
安全・健康は経営の最優先課題

向殿　労働安全衛生を国際的な認証にしたという意義については、はじめてでしょうか。温度ではもちろんのこと、職場環境などを含めて、労働災害防止の取り組みを、システマティックに考えることが難しく、なかなか広く浸透していないことも事実です。

提案　現在グローバルな経済活動と無縁な企業はありませんし、中小企業についても、海外から受注することもあるとは部材を輸入することがあるわけで、その時にHSE（健康、安全、環境）の管理体制を問われたり、問うたりすることもあるでしょう。国際規格のもつ意義は大きいと思います。

奥村　もう一つは、学生の採用面での効果です。厚労省では、子育てとながら働きやすい会社に対して くるみんマークの認定を行っており、ほとんどの労働安全衛生マネジメントシステムとはの事業者が、働く人の協力のもとに、計画（P）、実施（D）、評価（C）、改善（A）という一連の過程を定めて運用していく安全衛生管理の仕組みのこと。

マネジメントシステムを導入し安全衛生管理を継続的に改善していくことで、労働災害の減少、安全で健康な職場環境の形成、より一層の安全衛生水準の向上が期待される。日本では厚生労働省が労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針を1999年に公表している（2006年改正）。

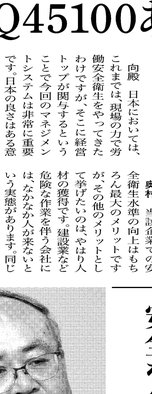


労働安全衛生マネジメントシステムとは

事業者が、働く人の協力のもとに、計画（P）、実施（D）、評価（C）、改善（A）という一連の過程を定めて運用していく安全衛生管理の仕組みのこと。

マネジメントシステムを導入し安全衛生管理を継続的に改善していくことで、労働災害の減少、安全で健康な職場環境の形成、より一層の安全衛生水準の向上が期待される。日本では厚生労働省が労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針を1999年に公表している（2006年改正）。

人材獲得と働き方改革にも役立つ


奥村氏

向殿　この4500 1や45100を日本に定着させ、普及させるにはどうしたらいいでしょうか。

山岸　労働災害を減らすには、様々な業態の事業者が歩調を合わせて取り組む必要があると思います。OHSMSのISO化、JIS化を機に、国内に広く普及させるためには、まずはOHSMSを運用する側の理解が不可欽です。事業者としては、理解浸透に向けて地道に努力していくことが大切だと思います。

向殿　ISO45001や45100は、ISO14001と同様、中小企業や第二次産業の普及を後押ししていく考えです。1960年代には、日本の労働災害による死亡者は過去最大で7,000人近くでしたが、72年の安衛法をベースにしたISO45001、そして日本独自の安全衛生活動をベースにしたJISQ45100が発行されます。これらのシステムは適切に運用すれば、労働災害が減り、安全衛生水準が確実に向上するものであり、日本の安全文化を高める チャンスでもあります。事業者としては、理解浸透に向けて地道に努力していくことが大切だと思います。

向殿　ISO45001や45100は、ISO14001と同様、中小企業や第二次産業の普及を後押ししていく考えです。1960年代には、日本の労働災害による死亡者は過去最大で7,000人近くでしたが、72年の安衛法シリーズの普及を上手に

八牧氏

安全を企業評価の一項目に

ディアや媒体が行っている企業評価の一項目に、安全を加えるとよいかもしれません。そういう時代になっていくと思います。

山岸　規格の説明から入っていただいた ほうがよかったかもしれません。そういう時代に4500 1や45100 1 いった良い枠組みができていくわけですから、さらなる改善につなげていきたいと思います。

八牧　労働安全衛生の中で、JISQ45001の普及が当面の大きなテーマと受け止めています。職員一同、大義をもって進めていきたいと思います。

向殿　ISO45001、45100に関する教育についていけないようなことが考えられます。

藤代　結局は規格の使い方です。ISO国際標準を取ってください、というと、企業経営者には何をしいることあるのですかと聞かれてしまうのです。ISOSDGsに寄与するISOと謳っています。45001や45100もそういう目標を達成するためのツールの一つとしてPRしていくべきかと思います。

向殿氏

経営トップの関与不可欠

ISO/JISQ45001とJISQ45100について

ISO国際標準化機構のマネジメントシステム規格としては、品質（ISO9001）や環境（ISO14001）の規格が普及しているが、今年3月に労働安全衛生のISO45001が発行された。この規格は和訳され、日本工業規格JIS Q 45001として、9月28日に発行される。ISO45001とJIS Q 45001は国際的にも同等と認められており、両者を合わせてISO/JIS Q 45001と表記することもある。また、日本で従来から組まれているKY（危険予知）活動、5S活動、健康増進といった独自の安全衛生活動を、ISO（JIS Q）45001に加えて継続することで、労働災害防止及び働く人の安全と健康の確保に実効ある労働安全衛生マネジメントシステムを構築することが望まれる。そこで、厚生労働省は経済産業省と協議し、日本独自の安全衛生活動等を取り入れてJIS Q 45100を作成した。JIS Q 45100はISO/JIS Q 45001と一体で運用することを意図している。

編集・制作　日刊工業コミュニケーションズ

出席者

経済産業省産業技術環境局 国際標準課長　藤代尚武氏
厚生労働省労働基準局 安全衛生部安全課長　奥村伸人氏
一般財団法人日本規格協会 理事長　揖斐敏夫氏
中央労働災害防止協会 理事長　八牧鴨行氏
日本経済団体連合会産業政策センターキングループ座長（JFEスチール㈱ 安全健康部部長）　山岸新一氏
（司会）明治大学名誉教授・工学博士　向殿政男氏

中災防のISO45001関連情報

中災防の解説書
これだけでわかるISO45001
～導入から実践までのポイント～

ISO45001の要求事項をどこよりもわかりやすく解説。厚生労働省のOSHMS指針との関連性も示し事業場で運用するために必要なアドバイス、参考となる様式事例が満載。

サイズ：B5判
発　行：10月予定
1色刷

【図書・用品】出版事業部
TEL：03-3452-6401（一般品受注担当）
TEL：03-3452-6847（特注品受注担当）
ホームページ：http://www.jisha.co.jp/order/

第77回 全国産業安全衛生大会 in 横浜
平成30年10月17日(水)～10月19日(金)

【全国産業安全衛生大会】
✓ 全国から1万人が参加する国内最大の安全衛生イベント！
✓ JISQ45001及びJISQ45100パネルディスカッションを開催！
✓ 労働安全衛生マネジメントシステムの運用事例など有用情報が満載！

ISO45001認証事業
✓ 中災防は長年培った、労働安全衛生のノウハウを最大限に生かした審査を実施
✓ 労働災害防止効果の高いJIS Q 45100の認証が可能（ISO45001認証も含まれている）

【認証審査】JISHA-ISOマネジメントシステム審査センター
TEL：03-3452-6694　FAX：03-3452-1275　E-mail：jishams@jisha.or.jp
ホームページ：https://jishaiso.jisha.or.jp/

研修・セミナー、技術サービス

【ISO45001規格のポイントと実践研修（1日コース）】
ISO45001の要求事項の解説や事業場が実施すべき具体的対応について演習を交えて説明します。講師はISO45001専門委員会（ISO／TC283）日本代表エキスパート等が担当します。
（東京）11/5,12/12,1/15,3/25　（大阪）10/16

【基本から実践まで分かるISO45001研修（2日間コース）】
ISO45001の要求事項を基本から実践まで解説し、演習により理解を深めていただく内容です。
（東京）10/4～5,3/4～5　（名古屋）3/7～8　（大阪）2/20～21

【ISO45001内部監査員養成研修】
ISO45001の要求事項（概要）と内部監査技法のポイントについて演習を交えて習得できます。
（東京）11/6,12/13,1/16, 3/26　（名古屋）12/19　（大阪）1/8

【技術サービス】
事業場の様々な求めに応じ必要な支援（事例等必要情報の提供、訪問研修）等を実施します。

【研修・セミナー、技術サービス】技術支援部
TEL：03-3452-6404　FAX：03-5445-1774　E-mail：ms@jisha.or.jp
ホームページ：http://www.jisha.co.jp/oshms/index.html

全ての働く人々に安全と健康を
～ Safe Work , Safe Life ～
JISHA 中災防
Japan Industrial Safety & Health Association
中央労働災害防止協会（中災防）　会長　中西　宏明
〒108-0014　東京都港区芝5-35-2　安全衛生総合会館

「JIS Q 45001」9月28日公示！

ISO 9001や14001などとあわせて企業経営に不可欠のマネジメントシステム導入を！

規格・書籍

JIS Q 45001・45100

◆発行予定

JIS Q 45001
（労働安全衛生マネジメントシステム
－要求事項及び利用の手引）

対訳 ISO 45001（JIS Q 45001）
労働安全衛生マネジメントの
国際規格 ポケット版
ISO 45001規格を、規格原本の英文とその日本語訳を見開き で併記した対訳本です。ポケットサイズで手軽に持ち運びができ、あらゆる場面で活用できます。また、英和対訳になっているので、手軽に国際規格の内容も確認できます。JIS Q 45001規格に関わる全ての方の手元に置いて頂きたい定番の一冊です。
JIS Q 45100も特別収録　※12月中旬頃発売予定

JIS Q 45100
（労働安全衛生マネジメントシステム
－要求事項及び利用の手引－
安全衛生活動などに対する追加要求事項）

ISO 45001（JIS Q 45001）
要求事項の解説
ISO 45001という規格が何を要求しているのかを正しく知りたい方にお勧め。要求事項を簡条ごとに具体的に解説します。新しく制定されたISO 45001規格の理解には必須となる、定番の一冊です。OHSAS 18001との対応関係や関連する法律・指針についての情報も付記。JIS Q 45100の要求事項についても解説。
※10月末頃発売予定

ISO9001・14001

◆参加のおすすめ　規格制定の経緯、概要及び JIS Q 45001・45100 のポイント解説（両規格の差分解説含む）、また両規格の認証についても説明します。
労働安全衛生の更なる向上を目指す組織の方々のご参加をお待ちしております。

主催：一般財団法人日本規格協会
共催：中央労働災害防止協会

◆対　象
・実効あるOHSMS構築を目指している方々
・45001・45100の認証を検討されている方々
・制定規格をいち早く知りたい方々

◆参加費
一　般：￥9,720（税込）
維持会員：￥8,640（税込）

◆開催日程

開催日	開催地
11月12日(月)	広　島
11月13日(火)	福　岡
11月21日(水)	東　京
11月26日(月)	大　阪
11月30日(金)	名古屋

ISO45001を含むマネジメントシステム認証
ISO45001 に基づく OHSMS 認証を受け付けています。労働安全衛生に専門性の高い審査員による ISO45001 審査を通じて貴社の労働安全衛生マネジメントシステムのスパイラルアップに貢献します。
その他マネジメントシステムとの複合審査についてもお問い合わせ下さい。

トータルソリューションをご提供します
標準化で、世界をつなげる。
一般財団法人 日本規格協会 SINCE 1945
お問い合わせ
〒108-0073 東京都港区三田3丁目13-12 三田MTビル
https://www.jsa.or.jp
E-mail：st@jsa.or.jp